



〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476 Tel 042-691-0011 (代表) Fax 042-691-8617 (共用) email: jimujsthe.org

◇編集・発行人 川村学園女子大学 丹治朋子 email: tantomo@gmail.com ◇学会 URL http://jsthe.org

News Letter 2012 No.2

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第31号 発行 2012年11月29日

◇学会事務局：杏林大学外国語学部 古本泰之、野口洋平

【日本観光ホスピタリティ教育学会 第12回全国大会のご案内（第1報）】

文部科学省中央教育審議会は、2012年8月に「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」（答申）を発表しました。当学会では、11月の第1回研究会において、この答申に至った経緯や内容、観光ホスピタリティ教育の現場で抱える悩みなどについて報告と意見交換がなされました。

その席では、それぞれの置かれている状況によって、取り組み方法や課題が多様であること、大学教育だけでなく高等学校までの教育との連携や、社会との接続についても十分議論すべきであることなど、多くの課題が浮き彫りとなりました（研究会の概要は後述いたします）。実際に、主体的な学び、継続的な学びというテーマは大学だけでなく、高等学校や専門学校、企業等の教育においても共通項が多いものと思われます。

そこで、今年度は、「観光ホスピタリティ教育における主体的・継続的学び」をテーマに、2013年3月2日（土）・3日（日）に全国大会を開催いたします。大会プログラムの概略と研究発表申し込み、ワークショップテーマの提案手順については次の通りです。詳細と参加申し込み書類は1月にお届けする予定です。一人でも多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

1 大会概要

(1) 開催日 2013年3月2日（土）・3日（日）

(2) 開催地 立教大学 新座キャンパス

〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26

(3) プログラム概要

<3月2日（土）>

11:00～12:30 理事会

12:30～ 受付（8号館5階）

13:00～ 開会式

13:05～14:05 基調講演

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（仮）」講師人選中

14:15～16:15 シンポジウム

「観光ホスピタリティ教育における

主体的・継続的学び（仮）」

モデレーター 小畑力人氏（追手門大学）

パネリスト 人選中

16:30～18:30 研究発表・教育実践報告

18:35～ 懇親会

<3月3日（日）>

9:20～ 受付（8号館5階）

9:30～10:20 ワークショップ話題提供

10:30～12:00 ワークショップ

「主体的・継続的学び（仮）」

「ボランティア・ツーリズム（仮）」

「電子メディアを活用した教授法（仮）」

このほかにテーマを1つ公募します。

12:00～13:00 休憩

13:00～14:00 ワークショップ報告

14:00～14:05 閉会式

※プログラムの内容・時間等は変更することがあります。

2 研究・教育実践発表の募集について

研究・教育実践論文および教育実践報告の発表者を募集します。いずれも、会員または会員を含む連名による発表が条件です。希望される方は、学会ウェブサイトにある、募集要項（全国大会様式1）と執筆要項（全国大会様式2）をご覧の上、同封の応募用紙（全国大会様式3、学会ウェブサイトにてダウンロード可）に必要事項を記入し、電子メールまたは郵便にて、2013年1月15日（火）までに送付してください。

(<http://jsthe.org/conf/cf12.html>)

その後、執筆要領に従って大会論文集用の原稿を作成し、2月8日（金）までにe-mailまたは郵送にて提出していただきます。なお、発表査読は行いませんが、内容・様式に著しく問題がある場合は、発表を認めない場合があります。

研究発表論文集製本費用（5,000円）は大会当日にお支払いいただきます。また、発表者は、大会懇親会（1日目）に原則として無料でご参加いただけます。

※応募締め切り 2013年1月15日（火）必着 ※発表論文完成稿締め切り 2013年2月8日（金）必着

3 ワークショップテーマ募集

ワークショップのテーマを募集いたします。以下の手続きに従ってご応募ください。

① ワークショップテーマの提案基準

- ・ 観光ホスピタリティ教育において重要な課題（または、今後そうなることが想定される）テーマ。
- ・ 提案者がモデレーターを担当できること（機関誌用のワークショップまとめの作成をお願いします）。

② 申請方法

- ・ 学会ウェブサイト（<http://jsthe.org/conf/cf12.html>）にある、「ワークショップテーマ提案申請書（別紙4）」をメール、FAX、郵便のいずれかの方法で大会事務局に送付してください。大会実行委員会にて検討し、1月の正式案内にて採択されたテーマを発表いたします。
- ・ 申請の締め切りは2012年12月21日（金）（必着）です。

<大会事務局> 発表やワークショップテーマのご応募、お問い合わせはこちらまで。

川村学園女子大学生生活創造学部観光文化学科 日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会事務局 丹治宛
〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸 1133

電話: 04-7183-6421（研究室直通、FAX 兼用） e-mail: taikai@jsthe.org ※電子メールが確実です。

【日本観光ホスピタリティ教育学会 2012年度総会・講演会報告】

2012年6月16日（土）、立教大学新座キャンパスにて、2012年度総会・講演会、ワークショップおよび懇親会が開催され、会員・準会員・一般37名と聴講学生11名、合計48名のご参加がありました。

総会では、議案がすべて承認されました。役員改選があり、会長はじめ、次の通り新役員が承認されました。

会長：村上 和夫（立教大学） 副会長：小畑 力人（追手門学院大学）、益山 代利子（松本大学）

理事：浅岡 柚美*（中村学園大学）、市岡 浩子*（札幌国際大学）、海老澤 昭郎*（長崎国際大学）

小槻 文洋*（神戸夙川学院大学）、舘野 和子*（東海大学）、丹治 朋子（川村学園女子大学）

中村 哲（玉川大学）、古本 泰之*（杏林大学）、吉田 常行*（大阪市立住吉商業高等学校）
 幹事：鈴木 涼太郎*（相模女子大学）、高嶋 竜平*（法政大学女子高等学校）、野口 洋平（杏林大学）
 安江 枝里子*（長崎外国語大学）
 監事：宍戸 学*（横浜商科大学）、安島 博幸*（立教大学）
 評議委員：岡本 伸之（帝京大学）、清水 誠*（中村学園大学短期大学部）、白坂 蕃（帝京大学）
 鈴木 勝*（桜美林大学）、豊川 洋*（川村学園女子大学）、山上 徹（同志社女子大学）（*は新任）

次に、「実業界出身の教員から見た観光ホスピタリティ教育の課題」と題し、玉井和博氏（立教大学観光学部特任教授）による基調講演がありました。

玉井氏は約 20 年前からホテル業に携わり、開業準備室から総支配人まで様々な役職を歴任し、現在は大学でホテルマネジメントを担当しています。実業界出身教員の大学における役割は、「出身分野を通じた観光産業教育への寄与にある」との考えを述べ、大学ではマネジメントに貢献する人材を育成すべきであること、ホテルサイドにも大学サイドにも課題が残されていることを指摘しました。さらに、ご自身のゼミナールでの教育実践の事例や厚生労働省キャリア支援事業（ホテル業編）についての紹介がありました。



玉井和博氏

その上で、不動産バブル崩壊後のホテル産業において、経営効率化とホスピタリティの維持という、対立軸にあり、矛盾するものを経営環境にあわせてどのように組み合わせていくべきかといった、いくつかの新たな経営課題について問題提起されました。また、学生は個々のケーススタディを話すと喜びますが、それだけではホテル総体の経営改善策は見えてこないため、もっと広い視野で関連他産業のことも含めて学ぶように指導しているというまとめがありました。

続く、シンポジウム「実業界出身の教員の観光ホスピタリティ教育」では、観光ホスピタリティ業界出身の先生方にパネリストとしてご登壇いただきました。

パネリストは次の通りです。秋山正人氏（文教大学 外資系ホテル・アセットマネジメント会社出身）、鈴木泰夫氏（帝京平成大学 旅行会社出身）、舘野和子氏（東海大学 日系航空会社出身）、森山正氏（阪南大学 テーマパークおよびホテル業出身）、柳川悦子氏（東洋大学 外資系航空会社等出身）

冒頭で、モデレーターの上村和夫氏（立教大学）から、「昨今、産業を取り巻く経営環境が大きく変化している中で、それぞれの産業が何をチャレンジ（経営上の克服すべき課題）と捉えているかについてみると、どうも、観光ホスピタリティ業界のチャレンジ様子が見えにくくなっている」という現状認識がありました。



左より、村上氏、秋山氏、鈴木氏、舘野氏、森山氏、柳川氏

この状況に対して、パネリストそれぞれが業界のチャレンジをどのように捉え、教育にどのように活かしているか、また、大学の中で感じている課題などについて幅広い意見が披露され、フロアとの議論も行われました。終了後には懇親会にて参加者同士の交流の場を持ちました。また、立教大学学生団体「トランジット」が、今年も学会運営を手伝っていただきました。

なお、基調講演およびシンポジウムの詳細については、本学会機関誌第7号に掲載予定です。

【理事会報告】

<2012年度 第1回定例理事会>

(1) 日 時 2012年5月12日(土) 13:00~15:50

(2) 場 所 立教大学池袋キャンパス 13号館 1階会議室

(3) 参加者 清水会長、鈴木副会長、村上副会長、安島理事、小畑理事、宍戸理事、益山理事、中村理事、野口幹事、古本幹事 以上10名(委任状5通)

(4) 議 題

1) 第11回全国大会の評価と反省

大会関連の報告がなされ、内容や運営上の評価と反省が行われました。

2) 2012年度総会・講演会について

2012年度総会・講演会のプログラム、総会議案および運営について検討しました。

3) 入退会審査

入会 [正会員] 芝木 儀夫 (精華女子短期大学)、上原 尚子 (金城学院大学)、
井上 晶子 (立教大学観光研究所)

退会 [正会員] 中尾 清、菱木 健、辻 三千代

※入退会許可後、正会員142名、準会員14名、特別会員1団体、名誉会員2名

4) 編集委員会報告

機関誌第6号の編集進捗状況等について報告がありました。また、国立情報学研究所 CiNii の還元金の金額と入金状況についての報告がありました。

5) 研究会について

今後の研究会のテーマについて意見交換がなされ、継続審議となりました。

6) その他

『データブック』の作成について進捗状況について報告があり、役員改選について人選と選任の手順について審議されました。

<2012年度 第2回定例理事会>

(1) 日 時 2012年6月16日(土) 11:20~12:10

(2) 場 所 立教大学新座キャンパス 5号館 6D 会議室

(3) 参加者 清水会長、鈴木副会長、村上副会長、豊川監事、小畑理事、宍戸理事、吉田理事、福本理事、益山理事、丹治理事、大谷理事、中村理事、野口幹事、古本幹事 以上14名(委任状2通)

(4) 議 題

1) 入退会審査

入会 [正会員] 芳中 晃 (関東学園大学)

資格変更 [準会員] → [正会員] 安江 枝里子 (長崎外国語大学)、中村 真人 (桜美林大学卒業生)

退会 [正会員] 山口 祐司、姜 聖淑

※入退会許可後、正会員 142 名、準会員 14 名、特別会員 1 団体、名誉会員 2 名

2) 2012 年度総会・講演会について

当日開催の総会・講演会に関する内容(総会議案を含む)、準備状況、運営、予算について報告がありました。

3) 編集委員会報告

機関誌 6 号編集の進捗状況を報告し、第 7 号の原稿募集について確認がありました。

4) 広報委員会報告

この 2 年間の会員増強の成果について報告があり、会報発行期日についての確認が行われました。

5) 研究会について

新理事会で検討することなどが確認されました。

6) その他

- ・次回全国大会を 2013 年 3 月 2 日 (土)・3 月 3 日 (日) に開催することが決定されました。
- ・事務局の外部委託について議論されました。
- ・会費の長期未納者に対して督促を行い、5 年以上未納の会員を退会とすることを承認しました。
- ・『データブック 2010-2011』が完成しました。

<2012 年度 第 1 回臨時理事会>

(1) 日 時 2012 年 6 月 16 日 (土) 14 : 15 ~ 14 : 25

(2) 場 所 立教大学新座キャンパス 7 号館 3 階

(3) 参加者 村上会長、小畑副会長、益山副会長、宍戸監事、市岡理事、海老澤理事、小槻理事、館野理事、丹治理事、中村理事、古本理事、吉田理事、野口幹事、高嶋幹事 以上 14 名 (委任状 4 通)

(4) 議 題

1) 今後の運営について

編集委員会、広報委員会が任期を迎えているため、改選を急ぐこと、9 月第 1 週に松本大学で次回の理事会を開催すること、理事会出席のための役員の旅費補助制度についての検討、新体制でのメーリングリストの立ち上げについて確認されました。

<2012 年度 第 3 回定例理事会>

(1) 日 時 2012 年 9 月 3 日 (土) 13 : 03 ~ 16 : 08

(2) 場 所 松本大学 4 号館 3 階第 3 会議室

(3) 参加者 村上会長、小畑副会長、益山副会長、浅岡理事、小槻理事、館野理事、丹治理事、中村理事、鈴木幹事、野口幹事、安江幹事 以上 11 名 (委任状 7 通)

(4) 議 題

1) 入退会審査

入会 [正会員] 藤原 弘一 (財団法人日本ホテル教育センター)、村瀬 孝 (財団法人日本ホテル教育センター)、中川 賢一 (札幌商工会議所附属専門学校北海道観光学科)、木暮 律子 (高崎

経済大学)、永田 美江子(平安女学院大学)、高橋 森哉(学校法人トラベルジャーナル学園
ホスピタリティツーリズム専門学校)

資格変更 [準会員] → [正会員] 清水 達生 (ホテルキヨシ名古屋)

退会 [正会員] 山口 祐司、姜 聖淑

※入退会許可後、正会員 152 名、準会員 11 名、特別会員 1 団体、名誉会員 2 名

2) 役員の役割分担について

会長より、本学会の課題と方向性について説明があり、編集委員会(委員長:益山副会長)、広報委員会(委員長:小畑副会長)、総務委員会(新設、委員長:丹治理事)および委員の選任が行われました。副委員長は各委員長が任命することが確認されました。各委員会のメンバーは次ページのとおりです(敬称略)。

編集委員会…益山(委員長)、中村、市岡、鈴木

広報委員会…小畑(委員長)、浅岡(会員担当)、小槻、野口、高嶋

総務委員会…丹治(委員長)、古本、野口、大谷(ウェブサイト担当)、安江

3) 編集委員会報告

機関誌第 6 号編集の進捗状況が報告され、第 7 号の予定についても確認されました。

4) 広報委員会報告

5 月に会報を発行しました。なお、今後は総務委員会が会報および学会ウェブサイトを担当することとなりました。

5) 総会・講演会実施報告

6 月の総会および講演会について報告と課題の抽出が行われました。

6) 第 12 回全国大会について

日程と会場について確認し、第 13 回以降の会場について、立教大学以外で開催できるかどうか、各大学の状況を確認しました。

7) 研究会について

今後のテーマについて意見交換がなされ、第 1 回の研究会のテーマと報告者が決定しました。

8) その他

- ・役員の就任依頼書について、一部大学から提出の要請があったため、対応することを確認しました。
- ・学会事務局の一部外注について議論がなされました。(継続審議)
- ・理事会旅費補助について。今年度は例年通り個人負担とするが、遠方の理事の負担が大きいことを鑑み、2013 年度より学会負担できないかを協議することとしました。(継続審議)

<2012 年度 第 4 回定例理事会>

(1) 日 時 2012 年 11 月 24 日(土) 13:00~14:45

(2) 場 所 立教大学池袋キャンパス 13 号館 1 階会議室

(3) 参加者 村上会長、小畑副会長、益山副会長、浅岡理事、海老澤理事、小槻理事、丹治理事、中村理事、古本理事、野口幹事、鈴木幹事 以上 11 名 (委任状 2 通)

(4) 議 事

1) 第 12 回全国大会について

日程及びテーマ、プログラム、運営方法、準備の手順等について審議されました。

2) 編集委員会報告

投稿規程変更（投稿先の変更）に伴い、学会ウェブサイトの情報を更新すること、第7号の編集について報告されました。

3) 2012年度第2回研究会について

2013年1月26日（土）の第2回研究会について意見交換がなされ、メーリングリストにて継続審議となりました。（追記：その後理事会メーリングリストにて、テーマが「サービスマーケティング」に決定しました）

4) 入退会審査

入会、退会、資格変更のいずれもありませんでした。

▽次回理事会は、2013年1月26日（土）東海大学代々木校舎4号館4階教室にて13:00より開催予定。

【編集委員会報告】

1. 新規編集委員の選出

11月24日の理事会にて編集委員会の構成委員が変わり、編集委員長益山代利子（松本大学）、副編集委員長中村哲（玉川大学）が就任されました。

2. JSTHE ウェブサイトの情報更新

学会のウェブサイトの機関誌に関する情報が更新されました。

詳細は学会HPをご参照下さい。<http://jsthe.org/journal/index.html>

3. 機関誌「日本観光ホスピタリティ教育」第7号 投稿原稿の募集

機関誌第7号の投稿原稿（論文・研究ノート・教育実践報告）の募集をしております。投稿される方は、2013年3月31日（日）[消印有効]までに、「投稿申込書」1部、ならびに「審査用原稿」3部をご投函下さい。送付先は下記の通りです。

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476 杏林大学外国語学部気付

日本観光ホスピタリティ教育学会 機関誌編集委員会 宛

本件についてのお問い合わせ：編集委員会事務局 益山代利子（松本大学）yoriko.masuyama@matsu.ac.jp

【2012年度 研究会報告とお知らせ】

2012年11月24日（土）、立教大学池袋キャンパスにて、今年度第1回の研究会が実施されました。テーマは、「中央教育審議会（答申）をめぐる意見交換」とし、小畑力人氏（追手門大学）の報告を受けて、村上和夫氏（立教大学）がモデレーターを務め、参加者の発言も促しながら議論のまとめを行いました。

小畑氏は、大学進学率の推移や、全国の進学志望者数に対する大学の定員総数の割合の変化、中等教育を含めた教育政策の変遷について、データを多用して説明した上で、この答申の出された理由についての解説がありました。

紙面の都合上、ここに議論のすべてを書くことはできませんが、主体的学び、ディプロマポリシー、アドミッションポリシー、科目のナンバリング、単位制度の実質化、アクティブラーニング、サービスマーケティング、

高大連携など、多くのことについて意見交換がなされました。また、学会として、例えば主体的学びの実態や事例などのデータ収集をすべきではないかといった意見も出されました。

なお、今年度の第2回研究会は、東海大学代々木キャンパスにて2013年1月26日(土)に開催いたします。テーマには、中教審答申の中でも重要な議論となっている「サービスラーニング」を取り上げ、基礎的な情報を整理した上で、観光ホスピタリティ教育での取り組みや課題について、ご参加のみなさまと意見交換をいたします。詳細については、同封の研究会案内文書をご覧ください。

【観光学・観光教育に関する動向】

(1) 教育における話題のキーワード (情報提供：編集人)

今年8月に示された中央教育審議会の答申の用語集より、3つの話題のキーワードをご紹介します。

【ナンバリング】

ナンバリング、あるいはコース・ナンバリング。授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み。1 大学内における授業科目の分類、2 複数大学間での授業科目の共通分類という二つの意味を持つ。

対象とするレベル(学年等)や学問の分類を示すことは、学生が適切な授業科目を選択する助けとなる。また、科目同士の整理・統合と連携により教員が個々の科目の充実に注力できるといった効果も期待できる。

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

【サービス・ラーニング】

教育活動の一環として、一定の期間、地域のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験することによって、それまで知識として学んできたことを実際のサービス体験に活かし、また実際のサービス体験から自分の学問的取組や進路について新たな視野を得る教育プログラム。

サービス・ラーニングの導入は、1 専門教育を通して獲得した専門的な知識・技能の現実社会で実際に活用できる知識・技能への変化、2 将来の職業について考える機会の付与、3 自らの社会的役割を意識することによる、市民として必要な資質・能力の向上、などの効果が期待できる。

(詳細:<http://www.human.tsukuba.ac.jp/gakugun/k-pro/aboutSL/aboutSL.html>)

引用元

(http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf)

学会のウェブサイトを更新しました！

<http://jsthe.org>

利便性向上のために、学会のウェブサイトを大幅にリニューアルいたしました。各種手続き方法や、各種書式のダウンロードなどがわかりやすくなり、写真も多用されてより華やかなページとなっております。ぜひこの機会にご覧いただき、お気づきの点がありましたら学会事務局までお寄せください。

会報では、会員の皆様から提供された観光ホスピタリティ教育の情報及び書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍（定期刊行物を除く）を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。ご協力をお願い申し上げます。

(E-Mail : tantomo@gmail.com、FAX 04-7183-6421 丹治朋子 (川村学園女子大学))